

きらめきだより

2015
5月号

(代表) : 久富木 幸子 (編集) : 地域活動支援センター Com. きらめき
〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町 246-3
Tel&Fax 0743-54-1430 E-mail : kirameki@m4.kcn.ne.jp

～看板完成～

きらめきの看板が完成しました。
少し前まで小さな看板がありましたが、老朽とともにその看板を取ってしまい一時期は看板のない期間がありましたが、今回ご縁あって、同じ郡山市内にある『みんなの広場 らんまん』様
にお願いして、「らんまんいろどり
隊」のメンバーの方たちに素敵な
看板を作成していただきました。

3月13日(金)に看板のプチセ
レモニー(贈呈式)を行いました。
思っていた以上に優しさ溢れる
看板に仕上げてください、きら
めきのイメージにピッタリでした。
カラーで見てもらえないのが残念
です。

本当にありがとうございました。
(文責:谷村)



・メンバーより御礼の言葉です・

みんなにかんばん作ってくれてよろこんでいま
した。
かんばん作ってくれてありがとうございます。
みんなはかんばんたのしみにしていました。
かんばん作るのがたいへんでしたか？
かんばんをぬるのがむずかしかったですか？
(メンバー:K.K)

看板の上下に描かれている雲や虹や板の色がと
ても明るい色で目に付きやすくてとてもきれいだな
と思いました。らんまん彩り隊の方々、とても立派で
綺麗な看板を作ってくださいどうもありがとうございました。
大切に使用させていただきます。(メン
バー:Y.K)

看板ありがとうございました。 またお願いします。(メンバー:Y.I)

らんまんいろどり隊の皆様、「Com.きらめき」の
看板を制作・設置して頂き、誠に有り難うござい
ます。以前と違って大きく、明るく、とても分か
りやすい看板で、凄く驚き致しました。
私が初めて「Com.きらめき」に来た頃は、何処に
在るのか分かり辛く、「Com.きらめき」の前を通り
越してしまっていました。けれども、これからは、
新しく来ていただく人や内職を持って来て頂く
人も、直ぐにお分かり頂けると思います。なので、
改めて心から感謝のお言葉を言わせて頂きたい
と思います。誠に有り難うございます。(メン
バー:S.M)

シリーズ

知っていますか？
てんかんだった偉人達！

6. ロシアの文豪ドストエフスキー

(一八二一〜一八八二)

この「マホメッドがアララの住いを隈なく見きわめてしまった一瞬、あるいは、ひっくり返った水壺から水のこぼれ出る間もない一瞬」というような時間感覚の比喻は、単にごく短い一瞬という意味よりも、ドストエフスキーが自分と同じてんかんの持病があったと信じていたマホメッドに傾倒し、その宗教哲学の知識や思考法の中から抽出した宗教的な特別な意味を持つものと思われまふ。あるいは今風に考えるならば、一瞬が永遠に繋がるような四次元空間の存在を認知、体験してしまつたということになるのでしょうか。

別の著書すなわち「白痴」の五年後に出版された「悪霊」の中で、ドストエフスキーはてんかん患者ではない主人公キリーロフに向かって、ムイシキン公爵の前兆と同一のエクスタシーの発作のくだりを述べています。「外界のハーモニーの存在を突然感じる五〜六秒程の瞬間が間々ある・・・それは、はつきりとした、争う余地のない、絶対的な感情です・・・あなたはたちまち創造全体を感じまふ・・・それは非常に大きな歓喜であり、五秒以上続くとしても魂は耐えられずに萎えていくでしょう。」

しかし、この現象が明らかにてんかん性であるという所信を強調するために、ドストエフスキーは、キリーロフにシャートフの問いを受けさせています。「てんかんではないのですか？」とシャートフ。キリーロフは答える「いいえ。」す

るとシャートフが言い返します。「君はてんかんになるんじゃないか。キリーロフ君、気を付け給え。聞いたことだが、それは全くてんかんの始まりと同じなんだ。ある患者は発作の前に起こる感覚を詳しく私に話してくれたが、それは本当に君の状態と瓜二つだ。彼もやはり五秒間といい、それ以上長いともう耐えられないと言っていた。」

以上、ドストエフスキーのてんかんと、その有名なエクスタシー前兆とについて考えてみました。(文献1)

ドストエフスキーのてんかん発作の前兆を表現したものととして、この他にも少し軽いタイプの前兆を抽出したものと思われる一節があります。以下にその一節と、それに対する一つの考え方を挙げてみました。(荻野恒一、河合逸雄・現代精神医学大系 第一巻▶てんかん1 中山書店 一九七七年)

2

「彼の頭上には、静かに輝く無数の星を散りばめた大空の円天井が、果てしなく広々と拡がっていた。まだそれほどはつきりと目立たない銀河が、天頂から地平線にかけて二本の橋をかけていた。さわやかな、何一つ動く物もない静かな夜が、大地をおおい隠していた。教会堂の白い塔や金色のドームが琥珀色の空に輝いている。秋の豪華な草花は建物のまわりの花壇の中で、朝までの眠りを貪っている。地上の静寂は天上のそれと一つに溶け合い、地上の神秘は星の世界の神秘と触れ合っているように思われた・・・、アリョーシャはじつと立ったまま、それらのものを眺めていたが、不意に足でも払われたように、



がばと大地にひれ伏した。

……彼は泣きながら、涙にむせびながら大地に接吻し、大地を涙でうるおした。そして自分は大地を愛する、永遠に大地を愛すると夢中になって誓うのであった。……」(「カラマゾフの兄弟」小沼文彦訳 ドストエフスキー全集10 筑摩書房 東京 一九六三年)

これはあまりにも有名な「カラマゾフの兄弟」の中の第七篇のアリョーヤの体験の一節です。その師ゾシマ長老が亡くなった夜、アリョーシヤは長老のお通夜の時、ふと外に出て、このエクスタシーに入るのです。それは、聖母に祝福された母なるロシアの大地との合体の歓喜であり、聖母に抱かれたイエスの喜びにも通じるものです。まこと聖なるロシアの地の静寂は「天上の静寂と合し、地上の神秘は、星の世界の神秘と触れ合う」のです。私たちは、この一節ほどロシア的な体験を、他のどのロシア文学にも見い出すことができないでしょう。

しかし同時に、このアリョーシヤのエクスタシーの記述は、ドストエフスキー自身のアウラ(てんかん発作の前兆)の体験に基づいていることは疑いありません。すなわちドストエフスキーは、アウラの体験を通して初めて、ロシア的なるものの根源を体験することができたとさえいえます。ではドストエフスキーは、アウラの体験に没頭し、この体験に浸り切ってロシア的なるものを内感していたのでしょうか。実は決してそうではないのです。そしてここにドストエフスキーの病気についての貴重な問題が内蔵されているわけなのです……。

ドストエフスキーの体験したてんかん発作が、彼の文学的表現を通して伝わって来たでしょうか? 日本語訳ですが、彼独自の発作の表現は、並々ならぬものがあります。彼の文学的才能を助けたのはまさに、「てんかん」だったのではないのでしょうか。

ドストエフスキーの体験した、てんかん発作の起こる前の最後の意識

識的な瞬間について少し考えてみましょう。もし、彼自身が実際に、「そうだ、この一瞬のためなら全生涯を捧げてもいい!」とはつきりと意識的に思うような瞬間があり得たとするならば、それはおそらくただドストエフスキーという天才のみが体験し、表現し得た特発性全般でてんかんの大発作の前兆だったのかもしれませんが、ある学者は、これを「臨死体験」のようなものと表現しています。てんかんの大発作は、それ自体が永遠につながるというわけではありませんが、たとえ一回ずつでも、それはその時々脳の全エネルギーを一挙に消耗するような、完全燃焼とも言える大爆発に他なりません。そこでもはや時間というものの絶対的な概念は超越されています。そしてドストエフスキーの言葉を借りて言えば、「この瞬間」に、ある種の絶頂感として体験できるものは、「言うまでもなく、その瞬間はそれ自身、全生涯に値したものだ」なのかも知れません。

「知られざる万人の病 てんかん 金澤 治著」より一部抜粋
* 次回は古代ローマ英雄ジュリアス・シーザーの話を書きたいと思います。

☆スポーツレク☆

3月7日(土)に三の丸会館でスポーツレクをやりました。
今回は9人でバレーボールを「にゃんこチームVSわんこチーム」に分かれて対戦しました。私はアタックやレシーブはとても難しかったけど皆のを見てたら、アタックがきれいに入ってた。チームの連携が出来ていていい感じに打てて良かったです。時間が経つのを忘れるくらい白熱しました。またやりたいです。(メンバー:A.S)



サーカスに行ってきました

**動物でできた。
サーカス楽しかった。
シマウマとキリンと見えた。
ゾウは見られません。
とびばこおまわりさんおもしろかった。
(メンバー:A・S)**

ホワイトライオインの声が聞ける、世界猛獣ショーを見る事が出来あまりの大迫力の凄さに驚きました。そして2人でする空中ブランコの演技の難易度の高さにはとても圧倒されました。また機会があればきらめきの皆さんと一緒に行く事が出来れば幸いです。
(メンバー:I.S)

3月、メンバー数名と一緒にサーカスに行きました。
私の席からステージまで遠かったのですが、それを感じさせない位に臨場感と迫力あるショーが次々と展開され、思わず見入ってしまいました。
あまりサーカスを生で観る機会が無いので参加して良かったです。
(メンバー:K・J)



遊食会(食事会)

今年の遊食会は、近鉄奈良駅の上にある中華料理店「百楽」に行きました。

中華料理屋で本格的な中華を食べるといのは実に20数年ぶりだったので、行く前から楽しみでした。梅花の型をした一人前用のお盆には、麻婆豆腐や春巻き、シュウマイなど6品の料理がありました。少しピリッと辛くて美味しかったです。

しかし、何といたっても印象に残ったのは名物の百楽プリンでした。初めて食べた味だったので、また食べたいと思いました。(メンバー：T.Y)



遊食会でみんなと一緒に「百楽」で楽しく食べました。そして、奈良公園で散策した後に、カフェで美味しく飲ませて頂きました。とても楽しかったです。(メンバー:A・0)



遊食会とは、年度末の最終の土曜日に行われる食事会の事。今年3月とは思えないくらい暑さでした。私自身初めての遊食会でとても貴重な経験となりました。途中ボランティアの方がサプライズとしてデザートをごちそうしてくださいました。感謝の思いと同時に来年は私がサプライズできるよう就職をしたいと思いましたね。(メンバー：S.T)



今回の遊食会の場所は、近鉄奈良駅近くの奈良百楽でした。確かにきらめきではなかなか会えないメンバーや久しぶりにお会いできたボランティアの人と一緒に食事できて良かったです。百楽でしか食べられないような料理を食べたかったです。

(メンバー：S.S)

❁お城まつりに参加しました❁

4月4日(土)お城まつりに参加しました。今年度のお城まつりは、その週がずっと雨続きで、週間天気予報でも雨マークだらけ。中止になるのだろうか心配していましたが、きらめきの出店の日は雨も降ることなくお天気に恵まれました。また今年度は出店場所が変わり追手門前で、人通りが多い好条件の場所での販売でした。今回の販売にあたってはどのステンシル商品を販売するか選択などの準備の大半をメンバーさんが考え準備してくれました。皆さま



熱心に大きな声を出しての販売お疲れ様でした。クッキー販売におきましては御所園様ありがとうございました。桜もとても綺麗に咲き、気候も暖かく、お城の周りを歩いたり、出店やまぐろの解体を見たり、食べたり、充実したお城まつりになりました。(文責：荒木)



お城まつりは晴天にみまわれ、多くの人たちがお花見をし、まつりを楽しんでいました。そんな中 Com. きらめきは普段作製しているステンシル商品をはじめ出店をさせてもらいました。メンバーが協力しあい、声を出し充実した一日となりました。売上以上の物を得た事は大きな収穫でしたね。(メンバー：S.T)

〈きらめきメンバーによるあれこれ&ひとこと言わせて!!のコーナー〉

ちびまる子ちゃんのゲーム大好きです。

フェルトボール大好きです。

石けん水上手にできた。

ステンシル上手にできた。

絵具を上手にぬった。

マットでパンジーを上手にできた。

型を上手にできた。

せんたくばさみを上手にできた。

(メンバー：A.S)



～Bon Cafe 体験・見学報告～

メンバー2人で参加しました。私は2月26日に10時～13時まで仕事体験で最初に洗い物を担当しました。動き回ってその後、休憩時に皆さんとスマホの話で盛り上がり、そのキッカケで自然と分からない時はすぐ聞けて、戸惑いながらも出来ました。11時～12時頃はお味噌汁担当になりお客さんが来られ、パニック状態になりスタッフの方にサポートしてもらい何とかこなせました。

3時間の体験でしたが、参加出来て良かったです。(メンバー：A.S)

2月下旬、メンバーが職業体験をするので職員と見学しました。

その中で印象に残ったのは、施設を利用されている方が就職を目標に向けて自分に出来る仕事を考え、自然と大きい声を出して接客をされていた事です。

実際、体験しているメンバーを見て、彼女の長所である明るさ、冷静に仕事をこなす柔軟な対応力を発揮しているように思いました。

最後に、この見学を通じて、自分が社会へ出て働く時、必要な事を学ぶ良い機会となりました。

(メンバー：K.J)

有償運送始まる！！

4月22日から有償運送サービスを始めました。奈良運輸局から許可を得て、写真のようなステッカーを車体の両側に貼って走ります。

Com.きらめきがNPO法人として新たな出発をしてから9年が経ちました。この間多くの方から利用のことや見学、体験についてのご相談がありました。その中で何件かは送迎サービスの有無に関係して利用につながらなかったことがありました。又、現利用者の中でも、公共交通機関が無かったり通所手段の確保が困難で本当は来たいのに毎日来られなかったりといったことがあり、「送迎ができればいいのに」というのが長年の私たちの思いでもありました。「途中で発作が起こるかもしれないから一人では通えない」という声を聴くたびに、てんかん患者主体の事業所としては何とかしなければ、何とかしたいとの思いが強くなり、去年12月から準備に入って今年4月、ようやくサービス開始にこぎつけました。

ただ、始まったとはいえ、職員の体制からすべての要望に応えることは難しくほんの入り口にしか過ぎないのですがそれでも現利用者の利便性と将来の利用者への朗報につながればうれしいことだと考えています。(文責：所長)



畑班より報告

じゃがいもの土にたねをうえました。くさめくのがたいへんそうです。なつはあつくて畑に行くのがたいへんです。さむいときは風が吹いて手がつめたくなってくさめきがたいへんです。雨がふってきて畑が土がぐつぐつの道が歩くのがたいへんです。じゃがいもの芽がのびるのが早くてうれしい、たのしい。じゃがいもができたらしゅうかくがめくのがたいへんです。たくさんあるのが草はたくさんあるのでめくのがしんどくてたいへんです。草がめきにくいところがあります。畑の土がみずにかわくのが早いです。こまりました。じゃがいものはっぱが虫にやられます。たいへんです。こまります。(メンバー：K・K)

皆様からの温かいご寄付ありがとうございました
百済書房様 6,500円

～ご寄付のお願い～

Com.きらめきの活動支援のためにご協力をお願い致します。

郵便振替口座番号 00950-2-204111

～きらめき活動報告・予定～ (平成27年4月～平成27年6月)

- | | |
|---|-----------------|
| 4/4 (土) お城まつり販売 | 6/9 (火) かたろうず |
| 4/11 (土) 絵手紙教室 | 6/12 (金) PC教室 |
| 4/14 (火) かたろうず 2名参加 | 6/20 (土) 音楽を楽しむ |
| 4/18 (土) 音楽を楽しむ (公民館音楽室にて) | 6/24 (水) ヨガ教室 |
| 4/22 (水) ヨガ教室 1名参加 | 6/26 (金) PC教室 |
| 4/24 (金) PC教室 3名参加 | 6/27 (土) 絵手紙教室 |
| 5/9 (土) 絵手紙教室 | |
| 5/12 (火) かたろうず 2名参加 | |
| 5/13 (水) 「こころの健康講座」出店へ
(郡山城ホール小ホール前にて) | |
| 5/15 (金) PC教室 3名参加 | |
| 5/16 (土) 音楽を楽しむ (公民館音楽室にて) | |
| 5/17 (日) NPO 法人総会 | |
| 5/27 (水) ヨガ教室 | |
| 5/29 (金) PC教室 | |



Com.きらめきを支援する会の新規会員さん募集のお願い

Com.きらめきは、皆様の支援のもと地域活動支援センターとして活動しておりますが、社会情勢は少しずつ明るさが見えつつも、障害者などを取り巻く社会情勢は大変困難で、また、運営財源についても厳しいのが実情です。つきましては、Com.きらめきの活動にご理解賜り、Com.きらめきを支援する会にご入会いただき、ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

- ・会費 (年間) 個人……1口 1,000円から 法人……1口 3,000円から
- ・郵便振込口座番号：00920-4-207343 口座名 Com.きらめきを支援する会

～訂正とお詫び～



きらめきだより2月号8項の4行目のところに間違いがありました。
×秋 ようか→○和央 (わお) ようか
訂正してお詫びします。

